

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学(前期)		必修	1年前期	20コマ・40時間
担当教員	佐藤 巖	背景	医科系大学教員45年		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学				
授業概要 人体の構造と機能を理解するため作業療法士に必要な基礎的知識の説明と、医学全体における位置づけを明らかにする。					
狙いと到達目標 人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの働きを説明出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床現場での解剖に関する項目は多く、各器官の構造を理解、説明できることは重要である。このために解剖学的名称から始まる一連の基本的解剖学的知識を使いこなせることは医療人には不可欠である。そのために医学の基盤科目である解剖学の習得は重要である。					
授業計画・内容					
1	解剖学の歴史と概論				
2	骨学総論				
3	脊柱と体幹の骨				
4	上肢と下肢の骨				
5	骨盤と頭蓋の骨				
6	骨の連結と靭帯				
7	筋学総論				
8	体幹の筋				
9	上肢帯の筋				
10	上肢の筋 * (前期中間試験を含む)				
11	下肢帯の筋				
12	下肢の筋				
13	循環器総論				
14	心臓と刺激伝導系				
15	動脈系 頭部				
16	動脈系 体幹 (含む内臓)				
17	動脈系 四肢				
18	静脈系・胎児循環				
19	リンパ系				
20	免疫				
評価方法	前期・後期で定期試験を実施。また各期で中間試験を行う。 60%に満たない場合はそれぞれの試験で再試験を行う。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	解剖学(後期)		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	佐藤 巖	背景	医科系大学教員45年		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学				
授業概要 人体の構造と機能を理解するため作業療法士に必要な基礎的知識の説明と、医学全体における位置づけを明らかにする。					
狙いと到達目標 人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの働きを説明出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床現場での解剖に関する項目は多く、各器官の構造を理解、説明できることは重要である。このために解剖学的名称から始まる一連の基本的解剖学的知識を使いこなせることは医療人には不可欠ある。そのために医学の基盤科目である解剖学の習得は重要である。					
授業計画・内容					
1	内臓学総論				
2	口腔と咽頭				
3	食道と胃				
4	小腸・大腸				
5	肝臓と膵臓				
6	呼吸器総論(鼻と咽頭)				
7	気管と気管支。肺				
8	横隔膜と呼吸運動				
9	泌尿器総論				
10	腎臓	*(後期中間試験を含む)			
11	尿管、膀胱、尿道				
12	排尿の仕組み				
13	生殖器総論				
14	生殖器(男性生殖器)				
15	生殖器(女性生殖器)				
16	胎盤、胎児、発生				
17	内分泌総論				
18	視床下部、下垂体				
19	甲状腺、胸腺、上皮小体				
20	副腎、ランゲルハンス島・その他の内分泌腺				
評価方法	前期・後期で定期試験を実施。また各期で中間試験を行う。 60%に満たない場合はそれぞれの試験で再試験を行う。				
自由記述 (メッセージ)					

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学実習		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	佐藤 巖	背景	医科系大学教員45年		
授業形態	実技	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学				
<p>授業概要 人体の構造と機能を理解するため作業療法士に必要な基礎的知識の説明と、医学全体における位置づけを明らかにする。</p>					
<p>狙いと到達目標 人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、人体の立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの働きを図で説明出来る。数グループに分かれ、標本の観察とスケッチを通して人体の構造と機能を理解する。各セクションごとにグループ発表し、説明能力を養う。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 臨床現場での解剖に関する項目は多く、患者に各器官の構造を理解、説明できることは重要である。このために解剖学的名称から始まる一連の基本的解剖学的知識を使いこし、具体的に患者に説明できることは医療人には不可欠ある。そのために医学の基盤科目である解剖学の演習を通して図や教材を通して説明できることを目指す。</p>					
授業計画・内容					
1	人体骨格標本(全身)と関節種類模型をスケッチする。				
2	(1)頭部、体幹、四肢を構成する骨の連結を確認し、骨の名称を記入する。				
3	(2)頭部、体幹、四肢を構成する骨の連結を確認し、骨の名称を記入する。				
4	(3)頭部、体幹、四肢を構成する骨の連結を確認し、骨の名称を記入する。				
5	グループによる骨の特色を発表する				
6	人体筋標本(全身)をスケッチする。 *(前期中間試験を含む)				
7	(1)頭部、体幹、四肢を構成する筋と骨の位置を確認し、付着の名称を記入する。				
8	(2)頭部、体幹、四肢を構成する筋と骨の位置を確認し、付着の名称を記入する。				
9	(3)頭部、体幹、四肢を構成する筋と骨の位置を確認し、付着の名称を記入する。				
10	グループによる筋の特色を発表する				
11	心臓模型と教科書の心臓の図をスケッチして名称を記入する。				
12	血管系模型と教科書の図をスケッチして名称を記入する。				
13	静脈と動脈の違いを体幹の模型からスケッチして違いを調べる。				
14	グループによる血管系の特色を発表する				
15	脳模型により脳を構成する各部位の位置を確認し、名称を記入する。				

16	伝導路と大脳・小脳の講義と模型による図説
17	求心性伝導路の模型を作る。
18	遠心性伝導路の模型を作る。
19	脳神経の講義と模型による図説
20	12脳神経の分布と働きをスケッチして経路を記入する。
21	脊髄神経の講義と模型による図説
22	末梢神経系模型による神経の分布と筋の働きをスケッチして経路を記入する。
23	体幹(消化器)の模型から内臓の位置を確認し、スケッチして違いを調べる。 *(後期中間試験を含む)
24	呼吸器模型から各部位の位置を確認し、名称を記入する。
25	体幹(泌尿器)の模型から内臓の位置を確認し、スケッチして違いを調べる。
26	体幹(生殖器)の模型から内臓の位置を確認し、スケッチして違いを調べる。
27	体表解剖による図説と確認(骨編)
28	体表解剖による図説と確認(筋編)
29	体表解剖による図説と確認(脈管編)
30	体表解剖による図説と確認(内臓編)
評価方法	前期・後期で定期テストを実施。* 60%に満たない場合はそれぞれの期で再試を行う。 定期テスト(90%)、スケッチ・発表(各5%)
自由記述 (メッセージ)	スケッチブック(B4サイズ)を各自用意してください。

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科	
授業名・属性	生理学	必修	1年前期20コマ/後期20コマ・80時間	
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事	
授業形態	講義	実務家教員	でない	
受講ルール	共通ルール			
受講条件	特になし			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院			
授業概要	生理学について教科書を中心にプリントや画像・映像資料・事例を交え講義する。			
狙いと到達目標	医療従事者として必要な生理学の基礎を習得させることを目標とする。			
授業において実務経験をどのように生かすか	経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。			
授業計画・内容				
1	生命現象と人体①			
2	生命現象と人体②			
3	生命現象と人体③			
4	細胞の構造と機能①			
5	細胞の構造と機能②			
6	細胞の構造と機能③			
7	神経の興奮伝導と末梢神経①			
8	神経の興奮伝導と末梢神経②			
9	神経の興奮伝導と末梢神経③			
10	神経の興奮伝導と末梢神経④			
11	(前期中間試験)			
12	中枢神経系①			
13	中枢神経系②			
14	中枢神経系③			
15	中枢神経系④			
16	筋と骨①			
17	筋と骨②			
18	筋と骨③			
19	筋と骨④			
20	総括			

21	感覚①
22	感覚②
23	感覚③
24	感覚④
25	血液①
26	血液②
27	血液③
28	血液④
29	心臓と循環①
30	(後期中間試験)
31	心臓と循環②
32	心臓と循環③
33	心臓と循環④
34	呼吸とガスの運搬①
35	呼吸とガスの運搬②
36	呼吸とガスの運搬③
37	呼吸とガスの運搬④
38	総括①
39	総括②
40	総括③
評価方法	前期・後期で定期試験を行う。また各期に中間試験を行う。レポート点等を加味して成績を評価する。
自由記述 (メッセージ)	

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	生理学実習		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	実技	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	岡田孝雄ら『生理学』改訂第5版(標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野)医学書院				
授業概要					
ヒトを対象とした生理学的・行動学的指標の測定とその評価と実習の成果発表をグループ学習で実施する。					
狙いと到達目標					
講義や教科書などで得られた生理学に関する知識を実験や観察、グループワークによって印象づけ、より理解を深めることを目標とする。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。					
授業計画・内容					
1	尿の生成と排泄1 腎臓の機能、ネフロン構造と働き				
2	尿の生成と排泄2 尿細管の再吸収と分泌				
3	尿の生成と排泄3 腎機能の評価、排尿				
4	酸塩基平衡 pHとは、アシドーシスとアルカローシス				
5	消化と吸収1 消化管の構造、口腔、食道				
6	消化と吸収2 胃の消化、小腸の消化と吸収				
7	消化と吸収3 肝臓の働き、胆汁の成分と働き				
8	消化と吸収4 膵液の成分と働き、大腸				
9	内分泌1 内分泌の仕組み、ホルモンの分類				
10~11	内分泌2 内分泌臓器とホルモン				
12	生殖と発生1 女性の生殖(関与するホルモン、性周期)				
13	生殖と発生2 女性の生殖(妊娠と分娩)、男性の生殖				
14	代謝と体温1 栄養素(種類と代謝)、エネルギー代謝				
15	代謝と体温2 体温の調節				
16~17	運動系実習				
18~19	呼吸器系実習				
20~21	消化器系実習				
22~23	血液系実習				
24~25	泌尿器系実習				
26~27	神経系実習				
28~29	感覚系実習				
30	まとめ				
評価方法	試験、ノート、レポート、小テストを加味して成績を評価する。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	運動学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	武藤友和	背景	理学療法士歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版(羊土社) 参考資料:基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 (医歯薬出版) 身体運動学 (メディカルビュー出版)				
授業概要 運動学は解剖学・生理学・生体力学を中心として隣接する分野を取り込んで応用している。本講義では、人間の身体運動の理解のために頭部・体幹・四肢関節の基本的構造と運動について身につける。また、人間の運動能力・パフォーマンス能力に関わる運動学習及びバイオメカニクスについても授業を行う。					
狙いと到達目標 各関節の構造を理解し、その機能(運動)についての意味を理解することができる。運動学的な知識を応用し身体運動について文や言語を用いて表現することができる。身体機能評価や動作分析について考察をする際に運動学の知識を応用し治療プログラムにつなげられることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 実臨床での症例の動作分析や評価・治療を行ってきた運動学の知識を生かす。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション、運動学について				
2	筋学総論				
3	運動器の構造と機能				
4	肩関節の機能と構造				
5	肩関節の運動				
6	肘関節の機能と構造				
7	肘関節の運動				
8	手関節・手指の機能と構造				
9	手関節・手指の運動				
10	上肢運動のまとめ				
11	中間テスト				
12	股関節の構造と機能				
13	股関節の運動				
14	膝関節の構造と機能				
15	膝関節の運動				
16	足関節の構造と機能				
17	足関節の運動				
18	顔面・体幹の構造と機能、運動				
19	バイオメカニクス				
20	運動学習、まとめ				
評価方法	定期筆記試験3回(中間テスト2回・期末1回:各30%)90%、その他小テスト5回 10%				
自由記述	解剖学(特に運動器)の自己学習をし、授業に臨みましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間発達学		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	北村弥生	背景			
授業形態	講義(対面、ネット)	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	講義では毎回、教科書を使用しますので、持参してください				
教科書等	「リハビリテーション医学講座 第2巻 人間発達学」上田礼子 著(医歯薬出版) その他、必要に応じて資料を配布する。				
授業概要 出生から死亡までの人間の発達について、解剖、生理、心理、社会的側面から解説する。平均的な発達に加え、障害がある場合の発達についても触れる。					
狙いと到達目標 1) 出生から死亡までの人間の発達について、解剖、生理、心理、社会的側面から理解する。 2) 平均的な発達に加え、障害がある場合の発達について理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか ・全障害に関する研究および実践活動の経験を、実例として情報提供する。					
授業計画・内容					
1	総論				
2	新生児期から学童期までの身体、運動、生理の発達				
3	新生児期から学童期までの認知の発達				
4	新生児期から学童期までの情緒の発達				
5	新生児期から学童期までの社会性と人格の発達				
6	青年期				
7	成人期				
8	老年期				
9	出生前と死・喪失				
10	生涯を通じた課題(家族、災害、統計)				
評価方法	期末テスト及び小テスト。授業内容に沿って、数回のレポート提出(次の回までに提出する宿題形式)。				
自由記述 (メッセージ)	質問など積極的な授業への参加を期待します。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	病理学概論		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	山 美喜子	背景	東京歯科大学病理学講座で病理組織診断担当		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版				
授業概要 病理学の基本的概念を理解し、国家試験に必要な要点を把握する。					
狙いと到達目標 病理学総論を中心に、関連した国家試験に出題頻度の高い疾患について解説する。各授業に小テストを行い、教員、学生相互に理解の度合、授業の要点について確認を行う。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病理診断医としての経験を基に、医療における病理医の役割、作業療法との関連について授業で取り上げる。					
授業計画・内容					
1	病理学の意義、病因(主な外因)				
2	退行性病変(代謝障害) 代謝障害による疾患①				
3	代謝障害による疾患②				
4	進行性病変、循環障害				
5	炎症1(形態学的変化)				
6	炎症2(分類)				
7	免疫1(免疫担当細胞、抗体の種類と働き)				
8	免疫2(免疫異常、特にアレルギー)				
9	腫瘍(腫瘍細胞の特徴、良性と悪性の違い)				
10	先天異常(遺伝性疾患と染色体異常)				
評価方法	期末テストの成績				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	一般臨床医学 I		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	熊本恵美子	背景	臨床職歴31年		教育歴8年
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書なし、レジュメ・プリントを配布 参考書:PT・OT・STのための 一般臨床医学 第3版 医歯薬出版				
授業概要 チーム医療の一翼を担うリハビリテーション医療者として、理解しておくべき臨床科目の概要を理解する。					
狙いと到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・各臨床科目の特徴を大づかみに記述することができる。 ・授業内容の疑問について、解決方法を表現することができる。 ・各臨床科目について、自分の体験や考えをグループワークで表現できる。 ・グループワークで、他者の個性や多様性を感じるができる。 ・医療への興味・関心や自己の学習課題について、主体的に考え始めることができる。 					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。それにより、受講生が具体的にイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。					
授業計画・内容					
1	一般臨床医学概論:診療科区分、診断・検査法、治療法				
2	医療安全、チーム医療、感染防止、診療録				
3	救命救急医療:医療体制、心肺蘇生、ショック				
4	呼吸管理、輸血、救急処置				
5	外科総論:機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、				
6	血行障害、腫瘍、臓器移植				
7	消化器、神経、筋・骨格疾患				
8	泌尿器・生殖器疾患:解剖・生理、診断・検査法・主な疾患				
9	婦人科・産科疾患:解剖・生理、主な疾患、妊娠、分娩				
10	皮膚疾患:解剖・生理、症状・病態生理、主な疾患				
11	眼疾患:眼の構造、検査法、症候、主な疾患				
12	耳鼻咽喉科疾患:耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭疾患、気道・食道疾患				
13	精神、心療内科疾患、発達障害:症状・病態生理、主な疾患				
14	老年医学、職業倫理:高齢者ケアの原則、高齢者によく見られる疾患				
15	高齢者の薬物療法、保険制度、職業倫理				
評価方法	授業・グループワーク参加状況および授業毎の課題シート(講義についての振り返り)提出により、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業は入学直後の開講であるため、初学者には臨床医学における専門用語は難解である。できるだけ日常的な平易な言葉を使い、解りやすい説明していきたい。本講義の基本的知識が、関連する専門領域の授業への学習意欲につながることを期待する。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	内科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	水野 一也	背景	基礎医学研究28年／臨床医11年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 内科学 医学書院				
授業概要 内科学は臨床医学の基礎となる領域です。他の疾患由来のリハビリであっても患者さんの中には内科疾患を併発している可能性があります。本授業を通して個々の患者さんの中でどのような病態が進んでいるのか、どのような点に注意したらよいかを理解していただくことを目標とします。					
狙いと到達目標 慢性疾患の中でも高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病について十分な理解をしていただきます。さらに内科疾患発症において共通基盤と考えられる慢性炎症と血管障害の役割について十分な説明を心がけます。					
授業において実務経験をどのように生かすか 基礎医学研究の中で獲得して来た知識と実際の診察室で経験した症例、事例を融合させることによって、さらにはよく遭遇する疾患について詳しく説明することによって内容を暗記するのではなく病態の理解につながる授業を目指します。					
授業計画・内容					
1	内科学総論				
2	内科学総論				
3	循環器疾患				
4	循環器疾患				
5	呼吸器疾患				
6	呼吸器疾患				
7	消化器疾患				
8	消化器疾患				
9	肝臓／胆道／膵臓疾患				
10	肝臓／胆道／膵臓疾患				
11	血液疾患				
12	血液疾患				
13	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)				
14	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)				
15	内分泌疾患				
16	腎臓／泌尿器疾患				
17	腎臓／泌尿器疾患				
18	免疫疾患				
19	免疫疾患				
20	感染症				
評価方法	基本的に期末試験100%				
自由記述 (メッセージ)	教科書のダイジェストであるプリントを用意してプリントに沿って授業を進めます。各論においては扱う疾患を絞り込み、一つ一つの疾患の本態を理解していただくことが大切であると考えます。加えて実臨床での問題点などを紹介します。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	整形外科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	柳澤雅弘・阿部幸一郎 坂本千寿	背景	柳澤 医学の基礎研究 阿部 作業療法士、坂本 理学療法士		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学第4版				
<p>授業概要</p> <p>骨、関節の疾患と傷害について、その病態と治療について学ぶ。さらに骨折や脱臼に伴う神経や血管の損傷についても学ぶ。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>整形外科疾患の専門用語が理解できる。基礎的な疾患の病態が理解できる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p>					
<p>授業計画・内容（授業の順番は変更になることがあります）</p>					
1	骨、軟骨、関節の構造－柳沢				
2	骨格筋の構造と機能、神経系の構造、骨・関節・筋・神経の病態生理－柳沢				
3	運動器の評価法と検査法（問診、触診、検体検査、画像検査）－柳沢				
4	運動器の評価法と検査法（四肢長と周径、関節可動域、筋力・神経学的評価）－柳沢				
5	整形外科治療法（保存療法、手術療法）－柳沢				
6	炎症性疾患、先天性骨・関節疾患－柳沢 関節リウマチ－阿部				
7	骨、軟部腫瘍－柳沢				
8	頸椎、胸椎の疾患－柳沢				
9	腰椎の疾患－柳沢				
10	脊髄損傷（病態、症状）－柳沢				
11	脊髄損傷（治療）－柳沢				
12	熱傷、切断および離断－柳沢				
13	代謝・内分泌疾患、退行疾患－坂本				
14	循環障害と壊死性疾患－坂本 外傷による循環障害－阿部				
15	神経筋疾患－阿部				
16	骨折－坂本 四肢の骨折－阿部				
17	関節における外傷性疾患－坂本				
18	末梢神経における外傷性疾患－阿部				
19	手の腱損傷－阿部 腱・靭帯における外傷性疾患－坂本				
20	スポーツ障害－坂本				
評価方法	筆記試験				
<p>自由記述 (メッセージ)</p>					

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	神経内科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版 医学書院				
授業概要 症候学、疾患各論					
狙いと到達目標 神経解剖学・神経生理学の知識と理解に基づいた神経内科学の学習					
授業において実務経験をどのように生かすか 経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。					
授業計画・内容					
1	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学①				
2	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学②				
3	運動機能の障害 運動失調、不随意運動				
4	神経の障害 運動・自律系機能の障害				
5	高次脳機能障害①				
6	高次脳機能障害②				
7	中間試験				
8	脳血管障害 概観①				
9	脳血管障害 概観②				
10	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍①				
11	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍②				
12	外傷性疾患①				
13	外傷性疾患②				
14	神経変性疾患 脊髄小脳変性症①				
15	神経変性疾患 脊髄小脳変性症②				
16	脱髄性疾患①				
17	脱髄性疾患②				
18	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患①				
19	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患②				
20	まとめ				
評価方法	筆記試験と随時行うレポート提出				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神医学	必修	1年後期	20コマ・40時間	
担当教員	江口 聡	背景	精神科コメディカルとして12年勤務		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版(医学書院)				
授業概要					
精神医学の対象である精神疾患と障害に関する講義					
狙いと到達目標					
精神医学について総論的理解および各論にわたり知識を習得する					
授業において実務経験をどのように生かすか					
精神科における精神疾患の症状や原因、疾患に対するリハビリテーションの知識について、実務経験を活かして精神科多職種連携でコメディカルが必要とされる知識を特にピックアップするし、現場の話も併せて伝えることで授業に生かす					
授業計画・内容					
1	精神医学とは・精神障害の成因と分類				
2	精神機能の障害と精神症状				
3	精神障害の診断と評価				
4	脳器質性精神障害				
5	症状性精神障害・精神作用物質等				
6	てんかん				
7	統合失調症				
8	統合失調症				
9	気分障害				
10	気分障害				
11	神経症性障害				
12	神経症性障害				
13	生理的障害・身体的要因等				
14	成人の人格・行動等の障害				
15	精神遅滞・心理発達の障害				
16	リエゾン精神医学・心身医学				
17	ライフサイクルにおける精神医学				
18	精神障害の治療とリハビリテーション				
19	精神障害の治療とリハビリテーション				
20	精神保健福祉・職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	精神疾患は現在5大疾病にも数えられており身体的なリハビリの方でも、うつ状態などを経験している方が多くいらっしゃいます。そのため、精神科志望でなくとも今後につながる分野として参加していただくと幸いです。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	小児科学		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	鈴木文晴	背景	小児科診療に従事して42年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 医学書院 初回に配布するプリントに沿って講義を進める				
授業概要 小児の成長発達、小児特有の疾患特に神経疾患について症例提示をまじえながら系統的に講義する。					
狙いと到達目標 1. 小児の正常な発達、成長を理解する。 2. 小児特有の疾患について理解を深める。 3. 疾患を持つ小児、およびその家族や社会への関わり方を考える。					
授業において実務経験をどのように生かすか 単なる疾患の概念を解説するにとどまらず、小児科臨床の現場において経験した症例、家族との関わりなどを紹介しながら小児の疾患について理解を深めてもらいたいと考える。					
授業計画・内容					
1	小児保健①				
2	小児保健②				
3	正常な成長・発達①				
4	正常な成長・発達②				
5	新生児疾患				
6	遺伝性疾患・ダウン症				
7	神経疾患①				
8	神経疾患②				
9	神経疾患③				
10	神経疾患④				
11	神経疾患⑤				
12	神経疾患⑥				
13	その他の小児科疾患①				
14	その他の小児科疾患②				
15	その他の小児科疾患③				
評価方法	15回の講義終了後に行う期末試験の成績にて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	子供は小さな大人ではない。 小児に関しての理解を深めることは成人疾患の理解にも有効である。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床心理学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	有田モト子	背景	臨床心理士 カウンセラー歴48年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	私語をつつしむ 教室の出入りはつつしむ				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし 必要に応じてプリントを配布				
<p>授業概要</p> <p>臨床心理学の基礎理論を学び、援助的領域での活動場面において役立てられる内容を提供していく</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>臨床心理学の基本を理解し、支援を必要としている方々への理解を深め、適切に基礎知識を活用できるようにする</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>臨床心理学を学ぶことによって、授業内容の理解と共に、自己への気づき、理解を深めるようになってほしい</p>					
<p>授業計画・内容</p>					
1	臨床心理学とは何か				
2	臨床の場における人間理解 (1)適応規制について				
3	(2)発達段階と発達課題				
4	臨床心理学の技法:心理検査(1)知能検査				
5	(2)質問紙法・作業検査法				
6	(3)投影法				
7	臨床心理学の技法:心理療法(1)精神分析				
8	(2)来読者中心療法				
9	(3)行動療法				
10	障害受容の過程				
評価方法	<p>期末テスト:80%</p> <p>講義後の小テスト・授業中の態度:20%</p>				
自由記述 (メッセージ)	心理学への興味、関心を増していく機会にしてほしい				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	運動学実習	必修	2年前期	30コマ・60時間	
担当教員	武藤友和 渡邊悠馬	背景	理学療法士歴22年 作業療法士歴10年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト辞典(ナツメ社) 参考書:基礎運動学 第6版(医歯薬出版) 人間の運動学(協同医書出版社) 姿勢・動作・歩行分析(羊土社)				
授業概要 運動学及び解剖学で学んだ運動器を中心とした知識の確認を行い、身体機能の評価(触察、関節可動域、筋力測定など)及び動作分析(歩行動作中心)について総合的に実習する。(武藤担当) 作業療法を実践できるようになるために、身体の運動について体験学習をする。また、グループワークにより筋肉の動き、起始・停止などの知識を定着させる。(渡邊担当)					
狙いと到達目標 運動学・解剖学の知識を応用し、身体機能評価および動作分析(歩行動作中心)の方法についての確認・実習を行い、治療プログラムのための検査結果を正確に収集できるようになる。(武藤担当) 身体の運動における着眼点を理解し、動作分析が一部行えるようになる。各運動について、働筋や起始・停止を述べることができる。(渡邊担当)					
授業において実務経験をどのように生かすか 人間の動きを客観的に評価・分析して治療プログラムに繋ぐため、実臨床で培ってきた経験を生かす。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション、運動学・解剖学の確認				
2	関節運動の主な筋について、姿勢と運動面について				
3	骨盤から下肢の触察				
4	形態測定(下肢:肢長・周径)				
5	関節可動域測定(股関節:屈曲-伸展)				
6	関節可動域測定(股関節:内転-外転、内旋-外旋)				
7	徒手筋力テスト(股関節:屈曲、屈曲・外転・外旋・膝屈曲での外旋、伸展)				
8	徒手筋力テスト(股関節:外転、屈曲での外転、内転、内旋・外旋)				
9	関節可動域測定(膝関節)				
10	徒手筋力テスト(膝関節)				
11	関節可動域測定(足関節)				
12	徒手筋力テスト(足関節)				
13	身体機能評価のまとめ				
14	動作分析についての基本事項の確認				
15	歩行分析について				
16	まとめ				

1~16回目
武藤担当

17	オリエンテーション 基本事項の確認	
18	姿勢・動作とは①(背臥位・寝返り)	
19	姿勢・動作とは②(起き上がり)	
20	姿勢・動作とは③(座位・立ち上がり)	
21	動作の記述(映像)	
22	姿勢・動作の記述(立ち上がり)	
23	グループワーク(動作において働く筋と起始・停止等)①	17~30回目 渡辺担当
24	グループワーク(動作において働く筋と起始・停止等)②	
25	グループワーク(動作において働く筋と起始・停止等)③	
26	グループワーク(動作において働く筋と起始・停止等)④	
27	グループワーク(筋の働き、起始・停止、神経支配を覚える)①	
28	グループワーク(筋の働き、起始・停止、神経支配を覚える)②	
29	グループワーク(筋の働き、起始・停止、神経支配を覚える)③	
30	レポート作成	
評価方法	レポート、グループワークでの活動・発表 (渡辺分はレポート50%、グループワーク50%)	
自由記述 (メッセージ)		

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	保健医療福祉概論		必修	2年前期	20コマ・40時間
担当教員	藤森徳子	背景	公立小学校において発達障害児支援		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	『医療福祉総合ガイドブック』医学書院				
授業概要 保健医療福祉の制度やサービスを理解するとともに、その対象となる方々について理解(対象観)することにより、より深く「保健医療福祉」を理解する。					
狙いと到達目標 ・保健・医療・福祉の領域に必要な関連法や制度、社会資源について理解ができるようになる。 ・保健・医療・福祉の領域のサービス内容について理解ができるようになる。 ・保健・医療・福祉の領域に関連する専門職との連携などについて理解ができるようになる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 都内の公立小学校において、発達障害のある子どもたちの日常生活の介助や学習支援を行っています。 発達障害に限らず、保健医療福祉の対象となる方は様々な生活のしずらさ、生きずらさを抱えています。当事者だけをみるのではなく、「家族」に対する支援も包括的に考えていく必要があると感じています。それらの経験をふまえて、現在の保健医療福祉の現状を広い視点で伝えられるように講義や演習の中で活かしていきます。					
授業計画・内容					
1	社会福祉とは①	社会福祉と日本国憲法、社会福祉の理念			
2	社会福祉とは②	社会福祉の支援体制、実施機関			
3	社会保障	社会保障、地域包括ケアシステム			
4	医療サービス①	地域保健法、医療観察法、MSW			
5	医療サービス②	医療提供の仕組み、病棟・病床の種類			
6	医療サービス③	精神科における医療サービス			
7	生活としごと①	公的扶助と生活保護法、原理・原則			
8	生活としごと②	生活保護給付、生活困窮者自立支援制度			
9	高齢者サービス①	介護保険、特定疾病			
10	高齢者サービス②	介護認定、要介護の種類			
11	高齢者サービス③	介護保険サービス、介護予防			
12	高齢者サービス④	地域包括支援センター、高齢者虐待防止法			
13	障害児・者サービス①	障害の種類、手帳制度			
14	障害児・者サービス②	相談窓口、サービス利用までの流れ			
15	障害児・者サービス③	障害者総合支援法			
16	障害児・者サービス④	障害者雇用、就労支援方法と実施機関			
17	子ども・家庭のために①	相談窓口、医療費助成			
18	子ども・家庭のために②	児童福祉施設、児童福祉サービス			
19	子ども・家庭のために③	児童福祉の行政機関、児童虐待防止法			
20	子ども・家庭のために④	児童福祉の行政機関、児童虐待防止法			
評価方法	筆記試験および授業の参加状況により総合的に評価を行う。				
自由記述 (メッセージ)	保健医療福祉の動向は、その時々々の社会状況と密接に関わっています。世の中で起きている出来事に、日頃からアンテナを張っておきましょう。				